



7月号

令和3年7月1日 発行

四中だより

朝霞市立朝霞第四中学校
埼玉県朝霞市栄町 5-1-60
TEL(048)466-4711
Fax(048)467-4744

目指す学校像

生き生きと学び、夢と希望を胸に、感動を実感できる学校

2030年へ向けて

校長 稲泉 功

生徒たちの若い力みなぎる学校総合体育大会地区大会を経て、7月に入りました。大会ではどの部活動においても、全力を尽くしたプレーが見受けられました。結果はもちろん大切ですが、仲間とともに汗を流し練習してきたことや、今まで取り組み努力してきたこれまでの「過程」こそが重要です。特に3年生にとっては最後の大会としての意気込みと充実感を持ち臨んでいる姿があり、大きな成長を得る機会となりました。

さて、現在世界では、SDGsの取組が推進されています。国連広報センターによりますと、地球には今、様々な問題が山積されておりそれが複雑に絡み合っていて、このままでは地球はもたない、そんな危機感から、世界中のあらゆる立場の人々が協力することで、地球の問題を解決していこうという考えです。2030年までに達成を目指す幅広い分野にわたる目標達成に向け、「All the Planet (地球全体)」で取り組むことがなにより重要になってきます。世界の目標という、遠い世界のことに感じてしまうかも知れませんが、できることから始めることが大切で、例えばプラスチックゴミを出さないようにマイボトルやマイバッグを持ち歩く、食べ残しをやめてフードロスをなくすことも立派なSDGsの行動です。

本校では、学習内容を教科や学年を横断し、相互の関係で捉えて2030年問題について取り組んでおります。3年社会科の授業では、公民の導入における「貧困・飢餓問題」について、2年道徳科では「ゲノム利用の功罪」について学習しています。未来への課題について正面から向き合い、自分の考えを温め、他者の考えに耳を傾けながら新たな自分の考えを見出す授業を展開することにより、生徒が大人に成長して、社会の中心で活躍している2030年へ向けた実践力を養っております。授業以外では、父母と先生の会による、使わなくなったコンクリートブロックやレンガ等の廃材を活用した正門の「ふれあいガーデン」・「ふれあいファーム」の整備も本校のSDGsの実践の象徴としています。これからも未来が豊かになるように、未来から預かった生徒のために、SDGsの実践を行ってまいります。

来週の期末テストが終わるともうすぐ夏休みがやってきます。生徒の生活の場も各家庭や地域が中心となりますが、子どもたちをよく見ていただき、気になることがありましたら、早め早めに、学級担任をはじめ学校に連絡・相談してください。どうぞよろしくお願いいたします。

2030年問題に向きあって



貧困について考え、各自タブレットで検索した情報をノートにまとめ、考えを発表する。主体的な学びから持続可能な社会の形成に対応する。(3年社会)



「ゲノムの利用」について、賛成派・反対派でディベートを行う。問題意識を持ち、自己を見つめ、道徳的価値を自分自身との関わりで捉える。(2年道徳)



父母・学校職員・生徒たちで整備した「ふれあいガーデン」・「ふれあいファーム」。ファームで順調に成長しているサツマイモと枝豆に、生徒から感嘆の声が。